

## Y22a 2012年日食へ向けた太陽観察方法周知の取り組みとその結果

矢動丸 泰, 小澤 友彦, 松島 誠 (紀美野町みさと天文台)

2012年の日食は日本の広い地域で金環日食が見られるため、天文台や科学館などでは日食へ向けての啓発活動が進められた。紀美野町みさと天文台では、平成23年8月から準備を進め、日食メガネ工作を含む講演を平成24年1月より行った。一人でも多くの町民に安全な観察方法を周知するため、町内全小中学校、地域サロンや各種会場でイベントを実施し、受講者は約1800人(町人口の17%)にのぼった。講演の他にも、町の広報で7ヶ月間記事を連載したり、日食特別ページを現象2ヶ月前から開設するなど様々な情報発信を行った。Webのアクセス解析からは、トップページ閲覧数の32.4%が前日と当日の二日間に記録されていたことが分かった。本講演ではアクセス解析に基づき、閲覧された情報の傾向など結果を示し議論する。

事前学習前には、小中学生からシルバー世代まで約1200人にアンケートを取った。そのうち、中学1年~3年(2009年時にも講演を受けた学年)では、普通のサングラスを正しい観察方法として選択した割合が52.0%(2009年事前)、23.4%(2009年事後)、22.9%(2012年事前)と推移し、3年前の状態を維持している。しかし3年を経て、日食メガネの回答率が83.2%から23.5%へ下がっており、必ずしも日食メガネが知識として定着したと言えない。一方でシルバー世代では、正しい観察方法として煤を付けたガラスを39.3%選択したものの、小中学生では13%以下である。このように、世代によって回答傾向が違ふことから、知識が定着するためには体験が大きな要因になると考えられる。本講演では、世代の差による観察方法の意識の違いや2012年金環日食の観察体験を経て観察方法への認識がどの程度変化しているかなど、アンケート結果を紹介するとともに議論する。

なお、本事業は「平成23年度和歌山県緊急雇用創出事業臨時特例基金活用事業」の補助を受けている。